

第 29 回パッチテスト・プリックテスト 2021  
東京ハンズオンセミナー

第51回皮膚免疫アレルギー学会  
2021年11月26日-28日（東京）

International Contact Dermatitis Research Group: ICDRG  
の最近の話題

藤田医科大学 医学部  
アレルギー疾患対策医療学

松永佳世子



日本皮膚免疫アレルギー学会

COI開示

発表者名 松永佳世子

発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業  
などとして

⑦寄附講座所属： ホーユ一株式会社



# ICDRG って知っていますか？

- International Contact Dermatitis Research Groupの略称
- 日本語訳：  
国際接触皮膚炎研究班
- パッチテストの  
ICDRG 判定基準

以上は知られています

- ICDRG設立の目的と事業は？
- ICDRG メンバーはどんな人？
- ICDRG baseline series とは？
- どのような共同研究をしているの？
- どんな教育活動をしているの？
- ICDRG基準を本当に知っていますか？

本日は、ICDRGに参加している私から、ご紹介します。



# ICDRG 設立の目的と事業

目的：国際接触皮膚炎研究班(ICDRG)は、  
接触皮膚炎の理解を促進するため

設立：1966年

## 事業

- パッチテストの標準化(40年以上)
- 定期的な学会の開催(35年)
- 接触皮膚炎に関する多くの出版物の著作・刊行に関与

<https://www.icdrg.org>



# ICDRG のメンバーはどんな人

## 条件

- 1) パッチテストを年間300例以上実施した経験がある
- 2) 接触皮膚炎に関する研究・教育業績がある（論文・学位指導）
- 3) 接触皮膚炎の共同研究ができる（パッチテスト・その他）
- 4) 接触皮膚炎の教育のために年間2回程度の海外への出張ができる
- 5) Business meeting に参加できる(英語)
- 6) 接触皮膚炎に関する教科書の分担執筆ができる



# Contact Dermatitis Research Group (ICDRG) 1967

最初の11人のメンバーの  
写真。左からダレル・ウィ  
ルキンソン、ヴェイッコ・  
ピリラ、カルロ・メネギー  
ニ、ハワード・メイバッ  
ク、クラウス・マルテン、  
ニールス・ジョールト、ベ  
ルティル・マグヌソン、シ  
グリッド・フレガート、エ  
ティン・クロニン、チャー  
ルズ・カルナン、ハンス＝  
ユルゲン・バンドマン。



ICDRGは、ベルティル・マグヌソン教授によって1962年に設立されたスカン  
ジナビアの定期パッチテスト標準化委員会から生まれました。1970年に11名  
に拡大されました。驚くべきことに、これらの11人のメンバーは、20年以上に  
わたって定期的に会い、多数の共同研究や出版物に関与するなど、接触皮膚炎と  
パッチテストを促進するために多くのことを実施してきました。1975年に  
Contact Dermatitis 誌を創刊し、全員が最初の編集委員会のメンバーになりま  
した。 <https://www.icdrg.org>



# ICDRG 2021

ICDRGは現在、世界22名の代表者から構成され、現在、ベルギー(2)、スウェーデン(2)、デンマーク、英国、米国、ドイツ、シンガポール、韓国、インド(2)、日本、カナダ(2)、ウルグアイ、オーストラリア、ポルトガル、アルゼンチン、オランダ、クロアチア、タイの18カ国のメンバーが含まれています。





## Professor Magnus Bruze ICDRG 2005-ongoing

### Chairman of the ICDRG

Department of  
Occupational and  
Environmental  
Dermatology  
Skane University  
Hospital Malmö  
S-20502 MALMÖ,  
Sweden

- スウェーデンのマルメ、スコーネ大学病院のルンド大学職業皮膚科学の名誉教授
- 専門分野：職業性皮膚病、接触皮膚炎、光皮膚科学
- ルンド大学：11の博士後期の主任指導教授：スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、ベルギー、オランダで擁護された博士後期の反対者と評価者；金属、ポリマー、香料、色素など様々な分野で国内外の研究に参画
- ルンド大学マルメ校で医学の学位を取得 スウェーデンのスモーランド州ヴェクショー・ラサレットでのレジデントを終えた後、国際接触皮膚炎研究班(ICDRG)の創設者の一人であるベルティル・マグヌソン教授の指導の下、スウェーデンのマルメ総合病院・ルンド大学皮膚科 その後、ルンド大学、ルンド・ラサレット、ルンド、スウェーデンで、ICDRGの創設者であるシグフリッド・フレガート教授の指導の下、職業皮膚科の薫陶を受ける。
- 欧州環境・接触皮膚炎研究班のメンバーであり、元会長。2005年にICDRGのメンバーになり、現在の班長
- スウェーデンの接触皮膚炎研究グループだけでなく、スウェーデン接触皮膚炎学会のメンバー。欧州接触皮膚炎学会(ESCD)の元会長、ESCDのフレグランスグループとEDENフレグランス研究グループのメンバー。スウェーデン皮膚科学・ヴェネツィア学会のメンバーで、元会長。欧州皮膚科学・ヴェネツィア科学アカデミーのスウェーデンの理事。彼はRIFMの専門家パネルのメンバー。

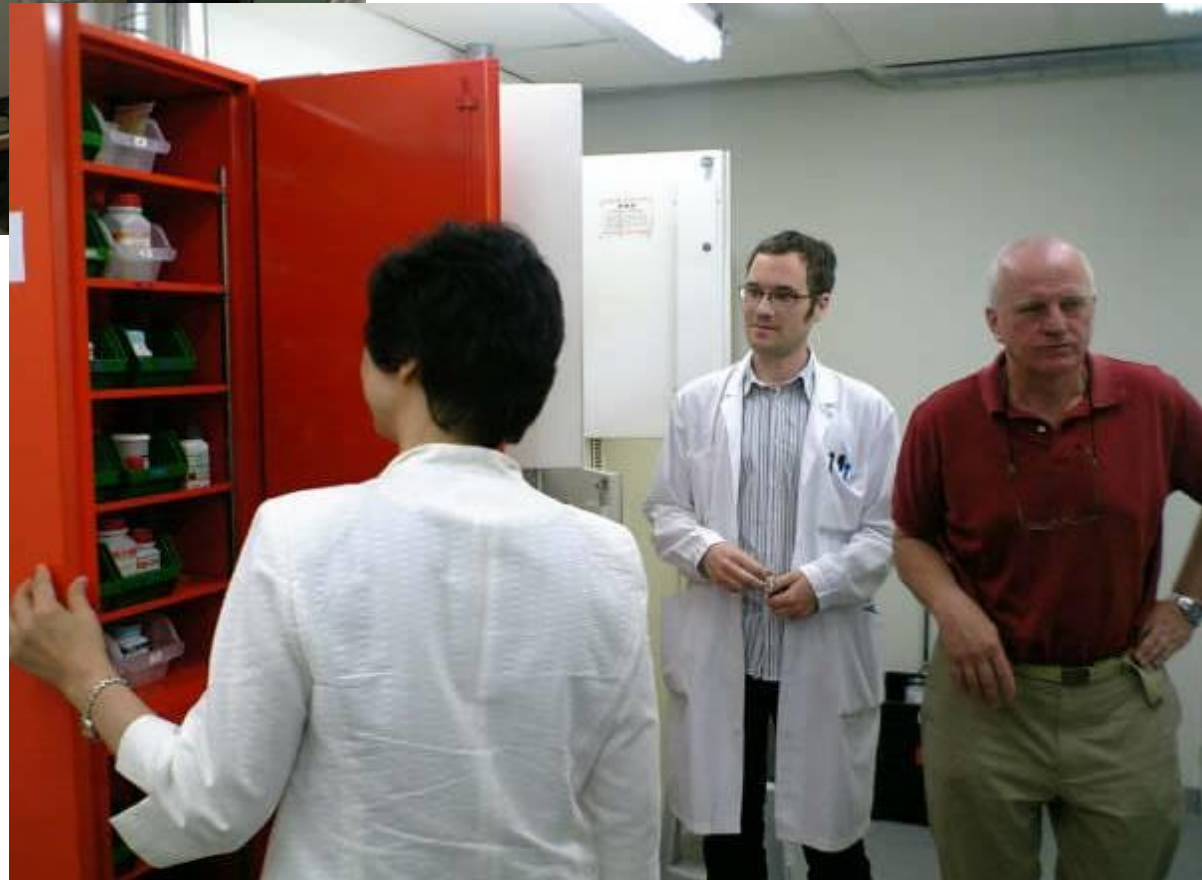
<https://www.icdr.org>





2006年  
Magnus Bruze先  
生の研究室にて

Department of  
occupational and  
environmental  
dermatology, university  
hospital Malmö, Sweden





## Professor Iris Ale ICDRG 1995-ongoing

Department of Dermatology  
University Hospital, Arazati  
1194  
11300 MONTEVIDEO,  
Uruguay

- イリス・アレ教授はウルグアイ共和国共和国大学のアレルギーと皮膚科の教授。大学病院の皮膚科とアレルギー臨床免疫学科の両方のレジデントのための学術活動を指導。
- アレルギーと臨床免疫学、皮膚科、集中治療医学、神経免疫内分泌学の専門家。
- ベルギーのルーヴァン大学で、ジャン・マリイ・ラシャペル教授と共に職業環境皮膚科学の博士課程を経て、カリフォルニア大学のハワード・メイバッハ教授の指導のもと、皮膚アレルギー学と皮膚中毒学の博士研究員を務めた。

- 医学教育の博士課程を履修し、現在は南米の医学のキャリアと学部のピア評価者として働いている。
- 現在、イベロラテンアメリカ皮膚科学委員会・委員長、南米アレルギー・喘息・臨床免疫学会の皮膚アレルギー委員会・委員長、ウルグアイアレルギー免疫学会会長。
- ウルグアイ医学会 フルブライト・フェローシップ賞、世界アレルギー組織、南米大学キャリア認定制度、国際労働機関からレクチャーシップ賞、国際労働機関を受賞。・1995年からICDRGに参加。
- 2001年にウルグアイのモンテビデオで第20回ICDRG国際シンポジウムを開催。



## Professor Klaus Andersen ICDRG 2005- ongoing

Department of Dermatology  
Odense University Hospital  
Sdr.Boulevard 29  
DK-5000 Odense C, Denmark

- デンマークのオーデンセ、南デンマーク大学臨床研究所の皮膚科学教授
- 1972年にコペンハーゲン大学を卒業し、1980年に認定皮膚科医になる。
- 1978-1979年、カリフォルニア大学サンフランシスコ校でフルブライト研究フェローシップを受賞し、ハワード・メイバック教授の指導を受ける。
- 1984年から1988年まで、クリニックで診療に従事。
- 1986年、防腐剤と殺菌剤によるモルモット感作試験に関する彼の研究で博士号を授与。
- 1989年から2015年まで、南デンマーク大学オーデンセ大学病院皮膚アレルギーセンターの皮膚科教授に任命される。

- 1997年から2004年まで、欧州委員会の化粧品
- 非食品科学委員会(SCCNFP)のメンバーをる。
- 臨床および実験的接触皮膚炎に関する多くの博士課程のプロジェクトを指導し、植物学者、アレルギー学者、化学者、疫学者、分子生物学者、製薬業界との学際的なコラボレーションに焦点を当てて研究しています。
- 植物や香料の接触アレルギーが専門。
- 1986年にEECDRG、2005年にIDCRGのメンバーとなる。
- ESCD 2008-10の会長も務めた。
- 2019年時点で470以上の論文を発表しています。





## Professor Alicia Beatriz Cannavó ICDRG 2016-ongoing

Department of Dermatology  
Chair Contact Unit  
Clinicas Hospital. Buenos Aires University  
Av. Maipu 1595 PB "D". (1638) Vicente  
López.  
Buenos Aires. Argentina

- アリシア・カンナボ教授は、アン・グーセンス教授の指導の元、カトリック・ド・ルーヴァン大学で博士課程を修了。1992年にマドリード、スペイン、ルイス・コンデ・サラザール・ゴメス教授の元、医学部サンカルロス病院に勤務。1992-1993、マドリードスペイン 12 デオクトゥブレ病院でビクトリア・メリノイン教授の指導を受ける。
- アルゼンチン皮膚科学会から助成金を受け、1990年の米国皮膚科学会第49回年次総会、米国アトランタに出席。
- イベロ・ラティーノアメリカン・カレッジ・オブ・皮膚科(CILAD) (2012-2016)の皮膚アレルギー・産業皮膚科グループの委員長を務め、アルゼンチン皮膚科学会執行委員会(2017-2019年)を務めた。
- 2018年にアルゼンチンのロサリオでICDRGの国際接触皮膚炎会議を開催した

• カンナボ教授は、ESCDパッチテストガイドライン(2015年)、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎(2020年)、接触皮膚炎および職業皮膚炎のガイドライン(2015年)の共同執筆者。

• 接触皮膚炎、職業皮膚科学、慢性蕁麻疹が専門：パッチテストの研究は約200人の患者/年。多施設臨床研究をおこなっている。

欧州接触皮膚炎学会(ESCD)、ICDRG、およびコストアクションを含む - 職業皮膚疾患の予防に関するスタンダード。11の本の分担執筆と20以上の論文の著者であり、主に接触性皮膚炎と職業皮膚科に関する、250以上の招待講演を行っています。現在の役職には、接触皮膚炎と皮膚科の職業環境皮膚科の教授と議長が含まれます。クリニカス病院「ホセ・デ・サン・マルティン」、ブエノスアイレス医学部、アルゼンチン。

アルゼンチン皮膚科学会事務総長、皮膚アレルギー・職業皮膚科学グループ共同議長。イベロ・ラティーノアメリカン・カレッジ・オブ・皮膚科学 (CILAD) さらに、アルゼンチンの皮膚科、アルキヴァス・アルヘンティノス・デ・デルマトロギア、インタラシザシオネス・テラペウティカス(共同編集者)の編集委員会のメンバーです。



## Professor Peter Elsner ICDRG 1999-ongoing

Department of Dermatology, University  
Hospital Jena,  
Erfurter Strasse, 35  
D - 07743 JENA, Germany

- ピーター・エルスナーは、ドイツのイエナ大学病院、フリードリヒ・シラー大学皮膚科学名誉教授。
- 専門分野は、職業皮膚病、接触皮膚炎、皮膚毒性学、皮膚薬理学、皮膚科における非侵襲的な方法。
- 700以上の論文の著者；20冊以上の本の編集者
- 皮膚疫学の研究；接触皮膚炎：手湿疹の臨床研究、国内外の研究に参加。
- ドイツのヴュルツブルク大学で医学の学位を取得。ドイツのヴュルツブルク大学病院で皮膚科とアレルギー学のレジデントを修了。彼はICDRGの創設者の一人であるハワード・メイバック教授の指導の下、カリフォルニア大学サンフランシスコ校皮膚科で研究皮膚科医として勤務。

- その後、グンター・ブルク教授の指導の下、スイスのチューリッヒ大学皮膚科の上級医師に就任。
- ドイツのイエナ大学病院で皮膚科教授、皮膚科科長に任命。
- ドイツ皮膚科学会(DDG)の理事、現在は熱帯皮膚科学会(ISDT)の会長。
- 皮膚のバイオエンジニアリングの国際協会(ISBS)と産業皮膚科学に関するドイツワーキンググループ(ABD)の会長。
- 1999年にICDRGのメンバーとなり、現在事務局長
- ドイツの接触皮膚炎グループだけでなく、欧州接触皮膚炎学会(ESCD)のメンバー。
- 欧州皮膚疫学ネットワーク(EDEN)の運営委員会の創設者であり、EDENフレグランススタディを含むいくつかの研究プロジェクトに携わっている。

<https://www.icdr.org>



## Professor Margarida Gonçalo ICDRG: 2016 - ongoing

Clinic of Dermatology, University  
Hospital  
and Faculty of Medicine, Praceta  
Mota Pinto, P-3000-075  
Coimbra, Portugal

- マルガリーダ・ゴンサロ教授は、コインブラ大学病院皮膚科(2009年から)で皮膚科の上級研究助手を務め、コインブラ大学医学部皮膚科教授(2015年から)に就任。
- 2014年、コインブラ大学医学部の博士課程の研究を「皮膚有害薬物反応」で擁護。遅延免疫反応に関与する病理メカニズムの理解への貢献」と1997年に免疫学のMDテシスを完了し、「アレルギー性接触皮膚炎の病態生理学」に取り組む。
- コインブラ大学病院(接触皮膚炎・職業皮膚科・アトピー性皮膚炎)の皮膚アレルギーユニットとUCARE/ACARE(GA2LEN蕁麻疹/血管浮腫センターオブリアレンス・エクセレンス)を担当し、薬疹、光過敏症、香料アレルギー、ベースラインシリーズの皮膚検査、光感受性、香料アレルギー、慢性蕁麻疹の研究を行っている。

- これらの主題に関する300以上の論文と30以上の本を分担執筆し出版している(h-index:37、webでの科学論文は>7500引用)。
- 欧州接触皮膚炎学会(ESCD)(2012-14)の会長、欧州環境接触皮膚炎研究グループ(EECDRG)の班長を務め、2015年から欧州皮膚科学・アレルギー学会(EADV)の科学プログラミング委員会および取締役会のメンバーを務める。
- EAACIの皮膚科部門の理事会のメンバーであり、2019年から欧州皮膚科学フォーラムのメンバー。
- ゴンサロ教授は、Contact Dermatitis 誌の臨床研究のセクションエディター、EADV誌のセクションエディター、ポルトガル皮膚科学雑誌の編集長。





## Professor An Goossens ICDRG ongoing

Department of Dermatology  
Contact Allergy Unit  
University Hospitals Leuven  
Kapucijnenvoer, 33  
B-3000 LEUVEN, Belgium

- アン・グーセンス教授は、ベルギーの「カトリック大学ルーヴェン」で薬学を卒業し、フランスのナント大学で美容学の先端研究の証明書を取得しました。彼女は有名なアレクサンダー・A・フィッシャー博士、ニューヨーク大学、ニューヨーク、米国の臨床教授と1年間臨床研究。
- ルーヴェン大学で医科学博士に就任し、皮膚科の職員に永任され、1990年に教授に任命される。
- 2016年に名誉教授に就任し、学術的にも職業疾患研究所(FEDRIS)の専門家としても活躍。
- ベルギー環境接触皮膚炎グループ「グループ・デ・チュード・エ・チュード・エ・デ・レシエルシュ・アン・デルマトロロジ・ド・コンタクト」(GERDA)、欧州環境接触皮膚炎研究グループ(EECDRG)(1993年から1999年まで事務局長、1999年から2002年まで会長、欧州接触皮膚炎学会(ESCD)(2010年から2012年まで会長)、ICDRG(国際接触皮膚炎研究グループ)を務める。

- 彼女はメキシコ皮膚科学アカデミーの名誉会員であり、ベルギー、スウェーデン、ポルトガル、アルゼンチン皮膚科学会のメンバー。
- ベルギー最高保健評議会のメンバー。接触皮膚炎、アナリ・イタリアン・ディ・デルマロギア、「アレルドロギアと免疫病理学」「国際皮膚科学・臨床研究ジャーナル」、および「化粧品」の編集委員会のメンバー。
- 1980年のROC-price、1990年の「A.A.フィッシャー講師賞」、2006年の「ジャン・ダリエ賞」、接触皮膚炎2013(マハトミ・ガンディとSMS医科大学、ジャイプール・インド)、国際皮膚社会連盟(ILDS)の賞を受賞。
- 接触皮膚炎の分野で多数の論文を執筆。

<https://www.icdr.org>



Associate Professor  
Suzana Ljubojevic Hadzavdic,  
Croatia  
ICDRG 2017-ongoing

Department of Dermatology  
and Venereology,  
University Hospital  
Center Zagreb, University of Zagreb School  
of Medicine, Salata 4, 10000 Zagreb, Croatia



ICDRG, Zagreb, March 2019

- スザナ・リュボイエビッチ・ハザヴディック博士は、1996年に医科大学を卒業。皮膚科専門医試験を2002に合格。2003年に理学修士号を取得、2005年に博士号を取得。
- 2009年に講師、2015年にザグレブ大学准教授に就任。
- アレルギー学ユニットと性器皮膚科と性感染症の外来で勤務。
- 専門の研究領域は、接触アレルギー、職業皮膚科および予防および生殖器皮膚科。
- リュボイエビッチ・ハザヴディック博士は、皮膚科とアレルギーの分野で200以上の原著論文や書籍の分担執筆。
- 2019年3月にザグレブでICDRG学会を成功裡に開催。



## Prof. Jun Young Lee ICDRG 2014-ongoing

Department of Dermatology  
Seoul ST Mary's Hospital  
The Catholic University of Korea  
222, Banpodearo  
Seocho-gu  
SEOUL 137-701, Korea

- リー教授は1981年に医学部を卒業し、韓国最大の大学研修病院であるカトリック医療センターで皮膚科研修を行う。
- 接触皮膚炎、職業性皮膚炎および皮膚アレルギーに興味を持つ。
- 韓国の接触皮膚炎のパイオニアであり、韓国接触皮膚炎・皮膚アレルギー学会の創設メンバーであったキム・チョン・ウォン教授とキム・ヒョンオク教授に師事し、インスピレーションを受けた。
- 韓国カトリック大学皮膚科の教員に就任後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校のハワード・メイバック教授の研究室で1年半にわたり客員研究員として学ぶ。

- 韓国カトリック大学皮膚科学科教授に就任し、韓国接触皮膚炎・皮膚アレルギー学会に事務総長、会長として活躍。また、韓国皮膚科学会(KDA)にも積極的に参加し、約10年にわたり理事、事務総長、会長を務めている。
- 2014年からICDRGのメンバーとして、ウン教授の後継者として、ICDRGに所属。
- 2022年韓国ソウルで開催される第16回APEODS会議の会長を務める。





# Professor Goh Chee Leok

National Skin Centre  
1 Mandalay Road  
1130 SINGAPORE



At a Social Gathering of  
APEODS  
in Singapore, 1997

- ゴー教授は現在、国立皮膚センターのシニアコンサルタント皮膚科医、シンガポール国立大学医学部臨床教授、デュークNUSポストグラッドメッドスクールとLKC医学(NTU)の非常勤教授を務める。
- 1990年から2004年までシンガポール国立皮膚センターのメディカルディレクターを務めた。
- 専門：接触皮膚炎と職業皮膚炎、皮膚科およびレーザー手術および医療情報学
- 1982年、故C・カルナン教授とE・クロニン博士、R・ライクロフトの下、ロンドンのセント・ジョーンズ病院で研修。
- デンマークのコペンハーゲンにあるゲントフテ病院、スウェーデンの Lund にあるSフレガート教授、ストックホルムの故Jウォールバーク教授と共に、故ニールス・ジョース教授のもと勉強。
- シンガポール環境産業皮膚科学会の元会長。
- Contact Dermatitis誌の編集委員会の元メンバーであり、米国皮膚科学アカデミーの皮膚科学とジャーナルのアーカイブの元国際編集委員。
- 査読ジャーナルに300以上の科学論文を発表し、多くの一般的な皮膚科や職業皮膚科学の教科書に多数の章を寄稿している。



## Professor Howard Maibach ICDRG 1967- ongoing

Department of Dermatology UCSF  
School of Medicine  
Box 0989, Surge 110  
SAN FRANCISCO, CA 94143-0989,  
USA

- ハワード・メイバック教授は、ニューヨークのトゥレーン大学、ニューオーリンズ、コロンビア大学、ペンシルベニア大学病院USPHSで教育を受け、1961年に皮膚科を卒業。1973年にカリフォルニア大学サンフランシスコ校皮膚科の教授に任命され、現在までご活躍。
- パリ・シュッド大学、クロード・ベルナル・リヨン1大学、リヨン大学、フランス、デンマークのシダンスク大学で名誉学位を取得。
- 職業性および接触皮膚炎の専門家であり、UCSFの皮膚科クリニックの一部である環境皮膚科クリニックで患者を診療。
- 彼の最も活発な研究分野は、皮膚病理学、皮膚毒性学、環境皮膚皮膚科であり、50年以上にわたりヒトの臨床研究をう。
- 30以上の科学雑誌の編集委員。
- 3,075以上の原稿と150冊以上の本がある。
- 彼は米国皮膚科学アカデミー(AAD)を含む19の専門学会や組織のメンバーです。サンフランシスコ皮膚科学会(SFDS)、アメリカ皮膚科学会(ADA)、北米接触皮膚炎グループ(NACDGI)、米国接触皮膚炎学会(ACDS)は、1967年に始まったICDRG、欧州環境接触皮膚炎研究グループ(EECDRG)、毒物学会(SOT)、国際職業保健委員会の創設メンバー。

- フランスのグラン・ル・モットで開催された経皮吸収の視点の年次国際会議にも参加。
- 世界中の政府、学界、産業界のコンサルタントである。米国皮膚科学会(AAD)は、フロリダ州マイアミ年次会議で2013マスター皮膚科医賞の受賞者。
- 2017年のAADの第75回年次会議で、会長賞受賞。
- 国際皮膚科学会連盟(ILDS)は、米国および60カ国以上での研究、研究、出版物、教育を通じて、国内外の皮膚科への優れた貢献を認め、メイバック博士に2014年の感謝状を授与。
- 皮膚科に多大な貢献をしてこられたが、おそらく世界中の若い研究者を指導し、それを求めるすべての人に、アドバイスを与え、彼の知恵を分かち合う用意ができていたことが最も素晴らしい点。

文責：ローズマリー ニクソン



## Professor Kayoko Matsunaga ICDRG 2006-ongoing

Department of Integrative Medical Science  
for Allergic Disease  
Fujita Health University School of Medicine  
Ngoya, Aichi  
Japan



The 17<sup>th</sup> International Contact Dermatitis Symposium  
& the 10<sup>th</sup> Asia-Pacific Environmental and  
Occupational Dermatology Symposium :  
President(2009.11.5-8)

- 松永佳世子は、名古屋にある藤田医科大学アレルギー疾患対策医療学の教授をしています。日本皮膚科学会認定専門医、日本アレルギー学会専門医／指導医。
- 一般社団法人SSCI-Net理事長。
- 1976年名古屋大学医学部卒業、名古屋大学分院皮膚科で早川律子教授に師事。
- 1991年に藤田医科大学皮膚科学講師、2000年に教授に就任。藤田医科大学副学長を2014年から2016年まで2年間務めました。2016年4月より現職。
- 2006年、早川律子教授のご逝去の後、ICDRGのメンバーに就任。
- ICDRGシンポジウムなど、多くの学会で招待講演。
- 2009年、第17回 ICDRG国際シンポジウムを第10回APEODSと共に京都で開催。
- 日本接触皮膚炎学会理事長(2004-2007)、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会理事長(2007-2011)を務める。
- 日本アレルギー学会化粧品のタンパク質加水分解物安全性特別委員会委員長を務める。
- 研究分野には、接触皮膚炎、皮膚安全研究、食物アレルギー、ラテックスアレルギー、スキンケア、職業皮膚科学などがあり、現在の使命は、特に接触皮膚炎と食物アレルギーの教育と研究。





## Dr John McFadden ICDRG ? -ongoing

Cutaneous Allergy Clinic  
St John's Institute Dermatology  
St Thomas' Hospital  
LONDON SE1 7EH

- ジョン・マクファデン博士は、ロンドンのセントジョーンズ皮膚科学研究所の皮膚アレルギー学科のコンサルタント皮膚科医。
- 彼はマルコム・グリーブス教授とライオネル・フライ教授と共にセントメアリー病院とセントジョーンズ皮膚科学研究所で一般皮膚科の訓練を受ける。
- 彼はエティン・クローニン、リチャード・ライクロフト、イアン・ホワイトに師事し接触皮膚炎の研鑽を行う。
- 主に接触皮膚炎に関する200以上の論文を発表。
- 染毛剤アレルギーの臨床的および実験的側面の研究で知られている。
- 25カ国以上で招待講演者を務める。
- 専門は方法論と化粧品アレルギー。



2006年  
St.Thomas Hospital Londonにて



## Associate Professor Rosemary Nixon ICDRG 2009-ongoing

Occupational Dermatology Research  
and Educational Centre  
Skin and Cancer Foundation Victoria  
1/80 Drummond St, Carlton South,  
Victoria 3053, Australia

- ローズマリー・ニクソンは、皮膚科と職業医学の両方でオーストラリアの専門資格を取得した唯一の医療従事者であり、1989年にリチャード・ライクロフト博士とイータン・クローニン博士にロンドンで研修を受け、職業皮膚科と接触皮膚炎に長い間、関心を持ってきた。
- 1987年からパッチテストをはじめ、1993年にオーストラレーシアで唯一の産業皮膚科クリニックを始める。
- 2001年、皮膚がん財団に職業皮膚科学研究センター (ODREC) (ODREC) ([www.occderm.asn.au](http://www.occderm.asn.au) odREC) を設立し、最近皮膚保健研究所に改名した。
- 150以上の科学論文と書籍の章を執筆しています。
- 彼女のグループは、ウェブベースのデータベースを確立し、定期的な教育活動と提携し、オーストラリアの皮膚科医のためのパッチテストを促進する非常に活発な接触アレルギーバンクを運営している。
- タイ、英国、イスラエル、フィリピン、シンガポール、ネパール、ペルー、カナダなど、国内外のパッチテストで多くの若い皮膚科医を指導してきた。過去の試験官と教員委員長(ビクトリア)を含む皮膚科医のオーストラレーシア大学で活躍し、モナッシュ大学とメルボルン大学の名誉臨床准教授。

- 2019年12月に皮膚保健研究所の会長を務めた。
- 1988年から1991年までプリンスヘンリー病院の皮膚科医、
- 1991年から2001年までモナッシュ医療センターの皮膚科部長
- 1991年から2016年までモナッシュヘルスの客員皮膚科医
- 2009年にはICDRGのメンバーに就任。
- ヤン・ウォールバーク賞、欧州接触皮膚炎学会(2008年)、皮膚科・産業保健部門の著名な科学者賞(国際研究推進協議会)など、研究で受賞。
- 2016年に皮膚がん財団特別表彰賞、2017年オーストラレーシア  
大学銀賞(最高賞)を受賞し、2017年には「学問および研究者を  
含む産業学への地域保健分野における重要な奉仕」「そして専門性  
に対して」オーストラリア勲章叙勲。

<https://www.icdrg.org>



## Professor Melanie Pratt ICDRG 2017-ongoing

University of Ottawa,  
737 Parkdale Room 464 and 461,  
K1Y1J8, Ottawa, Ontario, Canada

- メラニー・プラット博士は1953年にカナダのマニトバ州で生まれた。
- 1971年から1977年までオタワ大学の学部と医学部に通学。トロントのセントジョセフ病院でローテーションインターンシップを修了。その後、ニューブランズウィック州、オンタリオ州、ブリティッシュコロンビア州で全科ローテート後1年間カナダを旅する。
- 皮膚科を専門とする前は、トロントに戻り、ウェルズリー病院で内科を1年間研修。その後、オタワに戻り、1980年から1983年まで皮膚科のレジデント資格を取得した。
- レジデント最終年、ミネソタ州ミネアポリスでゴルツ博士の下で学び、イギリスのロンドンにあるセントジョンズ皮膚科病院で3ヶ月間過ごし、エティン・クローニン博士とチャールズ・カルナン博士の下で学んだ。
- この選択コース期間に、接触皮膚炎への関心が育まれ、それ以来彼女の主な関心領域となっている。
- プラット博士は、アメリカ接触皮膚炎学会(ACDS)の元会長
- デニス・サッセビル博士と共に、カナダ皮膚科協会の会議で毎年会合を開き、コンタクト皮膚炎フォーラムを運営するカナダの接触皮膚炎グループを設立。

- NACDYG(北米接触皮膚炎研究班)の招待メンバー。
- ICDRG(国際接触皮膚炎研究班)の招待メンバー。
- オタワ病院皮膚科の専任学術教授。
- 1986年からオタワ病院接触皮膚炎クリニックの部長を務め、年間約800例の接触皮膚炎を診療している。
- トロントのセントマイケルズ病院を中心としたWSIB調査ユニットの一部であるオタワの職業病専門衛星補助ユニットの非常勤メンバー。
- 2020カナダ皮膚科学会生涯功労賞の受賞者。
- 135の出版物を執筆。
- 接触皮膚炎の分野で国内外で頻りに講師を務めている。
- 乾癬、湿疹性疾患、免疫原性・膠原病血管疾患に対する皮膚科全身療法に関心を持っている。
- オンタリオ州オタワに住んでおり、3人の成長した子供の母でと1人孫の祖母。

<https://www.icdr.org>



# Dr Pailin Puanget ICDRG 2017-ongoing

Institute of Dermatology,  
420/7 Rajvithi Rd, Rajthevee,  
Bangkok  
10400, Thailand



Joint Meeting of the ICDRG and  
42<sup>nd</sup> Dermatological Society of Thailand Annual  
Meeting  
March 22, 2017



- プアンペット博士は、マヒドン大学シリラーシ病院医学部で医学と皮膚科の認定専門医を取得。
- 接触皮膚炎クリニックと一般皮膚科クリニックに関わる、バンコク皮膚科学研究所のコンサルタントを務める。
- 2011年から2012年にかけて、ロンドンのキングスカレッジ、セントトーマス病院のセントジョンズ皮膚科学研究所で皮膚アレルギーの臨床および研究員を務め、接触皮膚炎クリニック、蕁麻疹クリニック、皮膚科クリニックで常勤医として勤務。
- 看護師、GP、皮膚科の患者、皮膚科医ののに取り組んでいる。
- これらの教職とともに、国内および国際学会で発表。
- 多くの臨床論文と総説を発表している。



## Professor Denis Sasseville ICDRG 2005- ongoing

Montreal General Hospital  
Room L8.210  
1650 Cedar Avenue  
MONTREAL, QC H3G 1A4, Canada

- デニス・サッセヴィル教授は1972年にラヴァル大学(ケベックシティ)の医学部を修了し、1976年まで一般研修。その後、モントリオールのマギル大学で皮膚科の専門医研修に復帰。ケベック州リヴィエール・デュ・ルーで一人勤務皮膚科医として9年間過ごした後、1989年にマギルとロイヤルビクトリア病院に戻り、接触皮膚炎クリニックを開設した。
- マギル大学医学部教授(皮膚科学)に任命され、2000年から2011年までマギル大学保健センター皮膚科部長を務めた。
- 2017年末に一般皮膚科を退職したが、接触皮膚炎クリニックで現役の医師として務め、2015年3月からモントリオール総合病院に異動。

- カナダ接触皮膚炎学会の創設メンバーで、初代会長。
- 1991年から米国接触皮膚炎学会のメンバーであり、2005年から2009年まで副会長を務めた。
- 2000年から北米接触皮膚炎班(NACDG)、2003年から皮膚アレルギー症(GERDA)、国際接触皮膚炎研究班(ICDRG)の3つの研究班のメンバーでもある。

<https://www.icdr.org>



## Professor Cecilia Svedman ICDRG 2021 - ongoing

Department of Occupational and  
Environmental Dermatology  
Skane University Hospital Malmö  
S-20502 MALMÖ, Sweden

- セシリア・スヴェドマン教授は、スウェーデンのマルメにあるルンド大学の産業環境皮膚科教授。現在は、マルメのスケーン大学病院産業環境皮膚科の所長を務める。
- ルンド大学で医療訓練と博士号を取得し、オックスフォード英国のスレイド病院皮膚科で1年間の研究を行った。
- マルメで皮膚科のレジデント履修後、コペンハーゲンのゲントフテでトルケル・メンネ教授の下、6ヶ月間の臨床研修を受けた。
- マルメでは、その後、マグナス・ブルーズ教授の下で職業および環境皮膚科の指導を受けた。

- 職業皮膚科医として、彼女はマルメの講座でマグナス・ブルーズ教授と同僚と共同研究を続けてきた。
- 2年間、ヘルシンボリ、ランズクルーナ、エンゲルホルム、トレレボルグの皮膚科の科長を務めた。
- 現在は、職業環境皮膚科で博士課程の6人の学生を指導している。
- 専門分野は、職業皮膚科学、パッチテスト方法論、接触アレルギー、アレルギー性接触皮膚炎、全身反応および予防
- 現在の研究プロジェクトは、金属や香料の接触アレルギー、歯科材料、医療機器への接触アレルギー、パッチテスト方法論の改善方法、予防対策に焦点を当てている。





## Professor Kaushal Verma ICDRG - ongoing

Dep. of Dermatology  
and Venereology, All India Institute  
of Medical Sciences,  
New Delhi-110 029, India

- カウシャル・ヴェルマ教授は、インドのニューデリーにある名門全インド医科学研究所(AIIMS)の皮膚科学・病理学科の教授。彼は同施設で研修を行い1992年医学部教員となる。
- 150以上の学術論文と、25の本の章の研究出版物を書いている。
- 国際会議や全国会議で170以上の招請講演を行ってきた。

- 2008-2009年にインド政府のネパール顧問、2010-2013年にニューデリーのAIIMSのディーン(試験)に任命されました。2017年にエディンバラのロイヤル・カレッジ・オブ・ドクター(FRCP)フェローシップに続き、2018年に英国エディンバラのロイヤル・カレッジ・オブ・ドクターズからインスピレーションを受けた医師にノミネートされました。また、2019年にはインド医学アカデミーフェローシップ(FAMS)、2013年には国際医学アカデミーフェローシップを授与されました。2016年にインド皮膚科医、ヴェネツィア学者、レプロロジスト協会からL.K.ブタニ教授賞教授の教育と研究賞を受賞。
- 2003年皮膚科学優秀賞、2002年、2006年、2008年最優秀論文賞受賞。
- ヴェルマ教授は、ドイツのウルム大学の客員教授もしてた。国連コンサルタントインド政府保健省技術諮問委員会の専門家。他の多くの国家政府機関に対するアドバイザーと専門家。接触皮膚炎職業皮膚フォーラム(CODFI)の元会長、APEODSのメンバー。
- 多くの専門団体で公式ポストを歴任し、多くのジャーナルの編集委員会に参加。
- フェローシップと様々な国際的および国家の専門機関の会員。
- 全身性パルテニウム皮膚炎および他のアレルギー疾患に取り組んできた。
- 専門分野：アレルギー疾患(接触皮膚炎/蕁麻疹)、HIV/AIDS、感染症、皮膚リンパ腫、レーザー
- 現在は、性感染症に対する国際連合(アジア太平洋)地域の地域委員長を務める。



11<sup>th</sup> APEODS in Chandigarh,  
India Oct 14-16, 2011

どのような活動をしているのか？

教育活動：世界の学会と合同しICDRG教育コース提供



# 教育活動：ICDRGの他学会との合同学会 (2006-2019)

- 2006年9月：ベルリン、ドイツ、第8回ESCD
- 2007年9月：ゴールドコースト、オーストラリア、第9回APEODSとオーストラレーシア皮膚科学会
- 2008年5月：エストリル、ポルトガル、第9回ESCDに関連して
- 2009年11月：京都、日本、第10回APEODS
- 2010年9月：ストラスブール、フランス、第10回ESCD
- 2011年5月：ソウル、韓国、、世界皮膚科学会議
- 2011年6月：トロント、カナダ、化学物質への皮膚の職業的・環境的暴露会議
- 2011年10月：チャンディガル、インド、第11回APEODSとインドの接触皮膚炎・職業性皮膚疾患フォーラムの第3回全国会議(CODFICON 2011)
- 2012年6月、マルメ、スウェーデン・第12回ESCD
- 2013年10月：ジョグジャカルタ、インドネシア、第12回APEODSとPIT会議

- 2014年6月：バルセロナ、スペイン、第12回ESCD
- 2015年11月：マニラ、フィリピン、第13回APEODS
- 2016年9月：マンチェスター、英国、、第13回ESCD
- 2017年：台北、台湾、第14回APEODS
- 2018年6月：オタワ、カナダ、NACDGG
- 2018年8月：ロザリオ、アルゼンチン、国際接触皮膚炎会議
- 2018年10月：ミラノ、イタリア、第14回ESCD
- 2019年3月：ザグレブ、クロアチア、国際接触皮膚炎コース
- 2019年9月：クアラルンプール、マレーシア、第15回APEODS

<https://www.icdr.org>

どのような活動をしているのか？

Virtual ICDRG meeting on September 11, 2021から  
最新情報

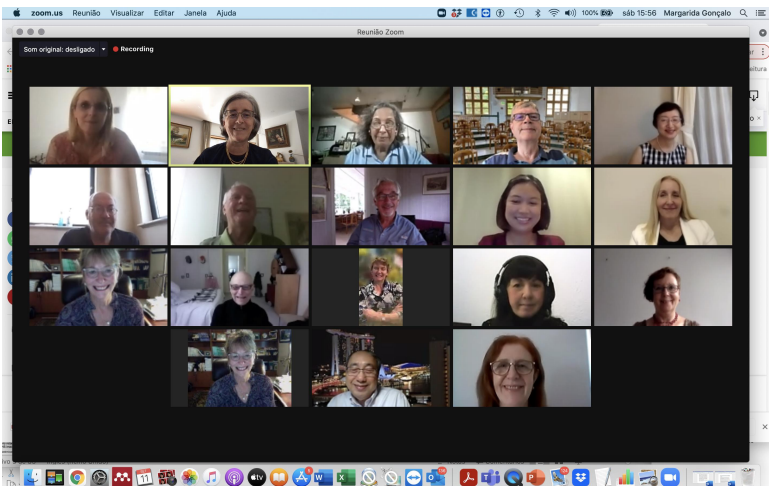


# ICDRG では、COVID-19パンデミック中3回の virtual meeting (web会議) を開催 会議と症例検討会を含めて3時間

Virtual meeting, 2 August, 2020

Virtual meeting, 13 March, 2021

Virtual meeting, 11 September, 2021



4:00 am- San Francisco, USA  
8:00 am- Montreal, Ottawa, Canada  
9:00 am Buenos Aires -Montevideo  
1:00 pm- England  
1:00 pm- Portugal  
2:00 pm -Denmark  
2:00 pm -Sweden  
2:00 pm Nederland  
2:00 pm Belgium  
2:00 pm -Germany  
2:00 pm -Croatia  
5.30 pm- India  
7:00 pm - Thailand  
8:00 pm- Singapore  
9:00 pm- Korea  
9:00 pm- Japan  
10:00 pm-Australia



# 出席者

## Members present:

Magnus BRUZE (Chair)  
Iris ALE  
Klaus Ejner ANDERSEN  
Alicia CANNAVO  
Peter ELSNER  
Chee Leok GOH  
An GOOSSENS  
Hemangi JERAJANI  
John Mc FADDEN

Margarida GONCALO  
Suzana Ljubojevic HADZAVDIC  
Jun Young LEE  
Howard I. MAIBACH  
Kayoko MATSUNAGA  
Rosemary NIXON  
Melanie PRATT  
Pailin PUANGPET  
Marie-Louise SCHUTTELAAR

## Members excused:

Jean-Marie LACHAPELLE  
Dennis SASSEVILLE  
Cecilia SVEDMAN  
Kaushal VERMA



Reunião Zoom

Som original: desligado Recording



Suzana Ljubojevic HADZAVDIC



Margarida GONCALO



Hemangi JERAJANI



Peter ELSNER



Kayoko MATSUNAGA



John Mc FADDEN



Magnus BRUZE (Chair)



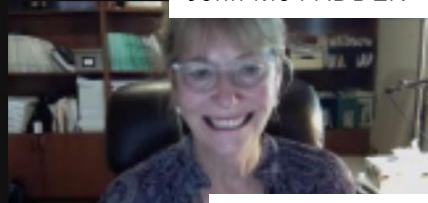
Klaus Ejner ANDERSEN



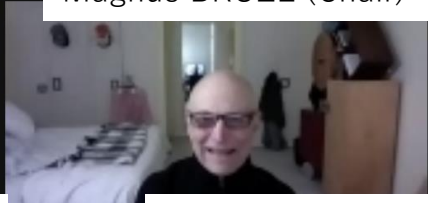
Pailin PUANGPET



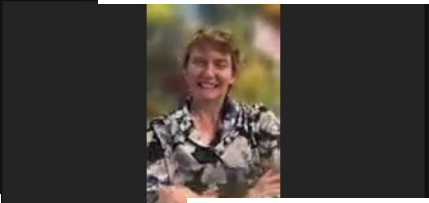
Marie-Louise SCHUTTELAAR



Melanie PRATT



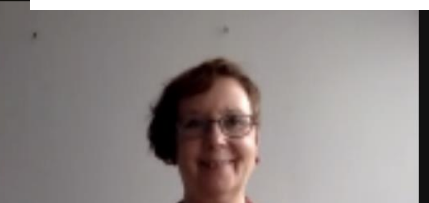
Howard I. MAIBACH



Rosemary NIXON



Iris ALE



An GOOSSENS



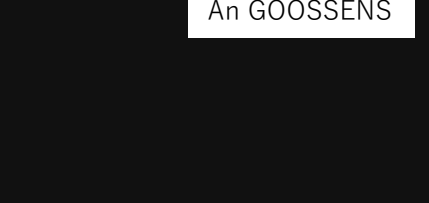
Melanie PRATT



Chee Leok GOH



Alicia CANNAVO



Jun Young LEE

# 最初にCOVID-19パンデミックの状況報告



- ヘマ:インド:** ワクチンの不足、ワクチン率の低さ、状況はまだ困難です。
- パイリン:タイ**第3波では、15-20ケース/d。ワクチンは限定:中国のワクチン。学校はまだ閉鎖されています。
- チーレオク:シンガポール:** いくつかのケース、良いコントロール。コビッド・エンデミックが宣言した。レストランがオープンしています。500ケース/日、数字が上昇します。ソーシャルディスタンス。70-80%の予防接種を受けた。第2ブースター配布。
- 佳世子:日本:** オリンピック・パラオリンピック、新しい波。1日あたり 8800 件の新しいケース。ワクチン接種50%。11月までに完全な予防接種が計画されました。
- ローズマリー:オーストラリア:** 第3波、厳しいロックダウン、学校閉鎖。ワクチン接種は速く、50%が予防接種を受け、開封が期待される。
- アリシア:アルゼンチン:** 第三波、30%が予防接種を受けました。旅行はまだ限られています。少ない症例が、問題:低いワクチン接種率。
- イリス:ウルグアイ:** 奇妙な状況。状況の変化、発生率の増加。ワクチン接種後の症例:乾癬再活性化。新しいロックダウン、経済的な結果。ワクチン接種90%。現在、少数の症例。見通しは不明です。
- ハワード:米国:** ワクチン接種にもかかわらずサンフランシスコの病気の流行。米国の他の地域は、特に南部の州で悪化しています。
- メラニー:カナダ:** 70%が完全に予防接種を受け、学校が開校し、レストランが開かれています。特定のグループに対するワクチンの義務。委任状に対する抗議。ワクチン接種後:ポ7ンホリックス、血管炎、皮膚疾患の再活性化、症例を収集している。
- マルガリーダ:** 状況は良い、可能な会議に直面する。87%の予防接種率。ケースは少なくとも少ないです。予防接種に対する反応を見る。
- スザナ:クロアチア**は良くなっていない、多くの観光客、症例は再び上昇している、50%が予防接種を受けた。学校が始まりました。大学はまだ開いていませんが、計画された顔に直面して教えています。地震で破壊された診療所、新しい診療所が計画されました。
- アン:ベルギー:** 2000人の新しい症例/日、70の入院、1日あたり7人の死亡。内部のマスク。より大きなイベント Covid パス。地域による予防接種の違い。管理のための単一のルールはありません。
- マリー=ルイズ:オーストラリア:** 85%1ワクチン接種、75%が完全に予防接種を受けた。毎日2500件の新しいケース。
- ピーター:ドイツ**の第4波、ロックダウンなし、ワクチン接種は良かったが、減速した。現在、主に予防接種を受けていない症例。学校、レストラン、制限は、テストや予防接種の証明が必要です。
- ジョン:イギリス:** 30000ケース/日、すべてが完全に開いています。ディベートre. 3打目。ワクチン接種後の興味深い症例:ピテリア症口ゼ、扁平苔癬。風土病。職業性皮膚炎クリニックを稼働しています。
- クラウド:デンマーク:** 風土的な状況、すべての制限が解除されました。ワクチン接種73%完全に。社会的な離散が推奨されます。必要に応じて新しい制限の準備が整いました。通常的生活が近づいています。ワクチンの副作用:顔の浮腫、持続性紅斑。
- ジュンヨン:韓国**- 40%の予防接種。
- マグヌス:スウェーデン**について報告します, デンマークと同様の状況, いくつかの遅延で:制限は月末に解除されます。

# 論文文化された共同研究(2020-2021)



- Revised Baseline Series of the International Contact Dermatitis Research Group. 2020 Jan/Feb;31 (1):e5-e7. Erratum in: Dermatitis. 2020 Mar/Apr;31 (2):166. PMID: 31905185. New/modified ICDRG baseline patch test series - Dermatitis. 2020 Jan 3. Online ahead of print
- Simultaneous patch test reactions to Lyral and FM II. Dermatitis. 2020 Jul/Aug;31 (4):268-271.
- Patch Testing With a New Composition of the Mercapto Mix-A Multicenter Study from the International Contact Dermatitis Research Group. Dermatitis. 2021 May-Jun 01;32(3):160-163.
- Patch Testing With Methylchloroisothiazolinone/Methylisothiazolinone Using a New Diagnostic Mix-A Multicenter Study From the International Contact Dermatitis Research Group. Dermatitis. 2021 Jul-Aug 01;32(4):220-224.

## Updated 2019 Baseline Series of the ICDRG: Selected Haptens and Concentrations in Percent



1	<i>p</i> -Phenylenediamine	1.0
2	4- <i>tert</i> -Butylphenol formaldehyde resin	1.0
3	Budesonide	0.01
4	Carba mix	3.0
5	MCI/MI*	0.215
6	Cobalt chloride	1.0
7	Colophony	20.0
8	Compositae mix	5.0
9	Diazolidinyl urea	2.0
10	Epoxy resin	1.0
11	Formaldehyde*	2.0
12	FM I	8.0
13	FM II	14.0
14	Imidazolidinyl urea	2.0
15	Lanolin alcohol	30.0
16	Mercapto mix	3.5
17	Methyldibromoglutaronitrile	0.3
18	<i>Myroxylon perei</i>	25.0
19	<i>N</i> -isopropyl- <i>N</i> -phenyl-4-phenylenediamine	0.1
20	Neomycin sulfate	20.0
21	Nickel sulfate	2.5
22	Paraben mix	16.0
23	PFR-2	1.0
24	Potassium dichromate	0.5
25	Quaternium-15	2.0
26	Sesquiterpene lactone mix	0.1
27	Textile dye mix	6.6
28	Thiuram mix	1.0
29	Tixocortol-21-pivalate	0.1

Revised Baseline Series of the International Contact Dermatitis Research Group. 2020

Jan/Feb;31 (1):e5-e7. Erratum in: *Dermatitis*. 2020

Mar/Apr;31 (2):166. PMID: 31905185. New/modified

ICDRG baseline patch test series - *Dermatitis*. 2020 Jan 3. Online ahead of print

*Vehicle is petrolatum if not stated otherwise. Bold font indicates haptens and/or concentrations that were changed/added.*

*\*Vehicle is aqua.*



# 共同研究実施中



- **Simultaneous patch testing with nickel 2.5% and 5%**  
The analysis was reviewed by professional statisticians and agreed.
- **Textile dye mix without DO3:** Testing period should be 6 months, testing may be continued, if not finished.
- **Simultaneous patch test reactions to formaldehyde and formaldehyde releasers (diazolidinyl urea, imidazolidinyl urea, Quaternium-15) – attachment**  
At least one releaser should be tested, clear indication of testing percentage should be given. Suzana will compile data and write first draft. Data shall be sent to her for the period 2016-2020. Data can be used twice (also in NACDRG), but it should be reported.
- **ICDRG patch test data in the period 2012-2016 available, extension to 2020.**  
Marl é ne Isaksson will send forms and prepare paper.
- **Chromate analyses of cement samples – see attachment**  
Data are presented by Magnus. Interesting variations in countries were detected. Klaus asks re. storage conditions. It is confirmed by Magnus that broken case may play a role by oxidation process, speed depending on the temperature. Margarida mentions that the sample from Portugal may have been oxidized. The conditions should be mentioned in the discussion of the paper. It is discussed that in real life the bags are often open for some time.

# Website の更新と学会活動



## 10. ICDRG活動

**韓国・ソウル・APRODS : 2022年6月17日~18日** ハイブリッド会議になります。

ジュン・ヨンはグループを会議に招待します。日付は欧州会議に近いです。  
会議はオンサイトとオンラインになります。

ICDRGは参加予定。

**ESCD, アムステルダム オランダ 2022年6月8-10日**

マリー・ルイーズのレポート

登録募集中

ライブミーティングが計画されている。

プレコングレスプログラムはまだ開かれている。

メインミーティングは水曜日の午後から始まる。

ICDRGシンポジウムは新しいプログラムに含まれており、スピーカーが確認される。

# 症例・研究発表 が 3つ



## 14. Miscellaneous: Short presentations

Klaus: Presentation on patch testing with nickel sulfate using True test and petrolatum preparations at 2.5 and 5%. With 5% more low-grade (+) reactions and also significantly more allergic reactions.

Melanie: Presenting a case for help: A case of lichenoid mucositis. The patient was sensitized to acrylates as a nail cosmetician. Had dental work done with cements containing HEMA. Mucositis developed adjacent to exposure sites. Proposition : residuary monomer present. Not responsive to various treatments. Magnus refers to testing with sufficient concentrations of elemental mercury and gold and do a late reading. The relevance of the acrylate allergy for the mucositis is critically discussed.

Pailin: Presents a case of pompholyx with a positive patch test to nickel sulfate. The case is widely discussed, it is confirmed that similar cases have been seen by members of the group, but rarely. To prove causation, an oral exposure test would be necessary.

# 共同出版物と 次回予定



## 13. ICDRG projects – books, articles, courses, etc.?

Howard reports about Sigi Fregert' s book on patch testing and the book «ICDRG. Patch and Prick Testing” . Howard and Jean-Marie are planning the 5 th edition. He invites submissions and invites members to contribute and take over the editors' work.

## 15. Next meeting

Will again be on a Saturday, probably in February/March 2022, Magnus will send out suggestions for dates.

There will be a meeting in person of the group at the ESCD Congress in Amsterdam. This might be a business meeting followed by a dinner in Tuesday night, June 7, 2022, or a dinner on this evening and a business meeting on Wednesday 8, 2022, at 8 a.m., before the official program starts. Marie-Louse will check if a room would be available.

Howard proposes new meetings at AAD, SF or Hawaii.

For the minutes:

Peter Elsner, Secretary





# ICDRG判定基準 本当に知っていますか？

ICDRG基準は常に見直されています！

どの ICDRG基準を使っているの  
文献を引用する必要があります

## ICDRG基準 1970年Wilkinson DSらが提唱した原著に従った判定

- - : Negative reaction
- ?+: Doubtful reaction ; faint erythema only  
( questionable faint erythema or macular(non-palpable) erythema, and not interpreted as a proven allergic reaction)
- +: Weak (non-vesicular) reaction; erythema, slight infiltration
- ++: Strong (edematous or vesicular ) reaction; erythema, infiltration, vesicles
- +++: Extreme (bullous or ulcerative)  
(coalescing vesicles)
- IR: Irritant reactions
- NT: Not tested

*Wilkinson D, Fregert S, Magnusson B et al. Terminology of contact dermatitis. Acta Derm Venereol 1970; 50: 287-292.*

# Fregert S. の ICDRG判定基準 現在使用されている

## Recording of patch test reactions according to the ICDRG<sup>1)</sup>

?+	Doubtful reaction; faint erythema only
+	Weak positive reaction; erythema, infiltration, possibly papules
++	Strong positive reaction; erythema, infiltration, papules, vesicles
+++	Extreme positive reaction; intense erythema and infiltration and coalescing vesicles
-	Negative reaction
IR	Irritant reaction of different types
NT	Not tested

*ICDRG: International Contact Dermatitis Research Group.*

1) *Fregert S. Manual of Contact Dermatitis, 2nd Ed., Munksgaard, Copenhagen, 1981.*

# Morphological guidance when reading on day 3/4

## Allergic morphology

Erythema covering the whole test area

Infiltration/oedema covering the whole test area

Papules

Vesicles

Bullae

(Erosion—if this constitutes the remains of

## ?+ morphology

Erythema not covering the whole test area

Infiltration not covering the whole test area

Few papules but no erythema/infiltration  
covering the whole test area

## Irritant morphology

Bullae

Dry skin

Scaling

Pustules

Erosion

Petechiae

Shiny skin

Cigarette paper structure

*Svedman C, et al. 'Calibration' of our  
patch test reading technique is necessary.  
Contact Dermatitis 2012; 66: 180-187*



ICDRG 班長  
Magnus Bruze  
先生の2017年1月  
13-14日  
米国 フェニックス  
6th Annual  
Patch Test  
Training  
Workshop  
講義テキストから

?+ Doubtful reaction; faint erythema only

+ Weak positive reaction; erythema, infiltration,  
possibly a **few** papules

++ Strong positive reaction; erythema, infiltration,  
papules, vesicles and **possibly a few** vesicles

+++ Extreme positive reaction; intense erythema and  
infiltration and **many or** coalescing vesicles

- Negative reaction

IR Irritant reaction of different types

NT Not tested

## Morphology protocol for use on D 3/4

Erythema covering the whole test area	<input type="checkbox"/>
Erythema not covering the whole test area	<input type="checkbox"/>
Infiltration/oedema covering the whole test area	<input type="checkbox"/>
Infiltration/oedema not covering the whole test area	<input type="checkbox"/>
Papule/s 1~3	<input type="checkbox"/>
Papule/s 4≦	<input type="checkbox"/>
Vesicle/vesicles 1~3	<input type="checkbox"/>
Vesicle/vesicles 4≦ or coalescing vesicles	<input type="checkbox"/>
Bulla/e	<input type="checkbox"/>
Dry skin	<input type="checkbox"/>
Scaling	<input type="checkbox"/>
Pustule/s	<input type="checkbox"/>
Erosion	<input type="checkbox"/>
Necrosis	<input type="checkbox"/>
Petechiae	<input type="checkbox"/>
Shiny skin	<input type="checkbox"/>
Cigarette paper structure	<input type="checkbox"/>
Other morphology found	<input type="checkbox"/>
Specify _____.	

ICDRG 班長  
Magnus Bruze  
先生の2017年1月  
13-14日  
米国 フェニックス  
6th Annual  
Patch Test  
Training  
Workshop  
講義テキストから